

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。

いい加減にして、テレビのバカ番組

在宅しているとどうしてもテレビを見てしまう。朝ドラのヒロインへのコメントで身内受けするバラエティー番組。その中でやる料理番組で炒め物をしている様子に「まだ生焼けだぞ！」などと画面を指差しながら怒鳴る。さらに民放のニュースショーも見てしまう。少しは仕事をせねばと思いつつも、パソコンを開いている居間にはテレビがついたまま。ついつい耳がそれに向いてしまう。

番組制作者やアナウンサーは、深刻な顔をしながら新型コロナウイルスの患者数が増えることを期待しているみたいだ。患者数の減少を喜ぶより次の患者数増加をおかせ、

いかにも政府が無策であるかのようにあげつらう。毎度お馴染みになつていく医者たちも彼らの居場所づくりをするように不安をあおり続ける。さらに、何の専門家でもないタレントや芸人たちがしたり顔で似非科学や凡庸なコメントを語る。

そうこうしているうちにメディアが批判し続けてきたワクチン接種の遅れは一気に米国の水準を超

えるレベルになり、患者数も急激に減ってきている。

誰がやったとしてもコロナの蔓延はなるようにしかならないものなのだろうに、少なくとも政府は可能な対策を進めてきたように思える。その効果が出てきたら「菅さんは説明が足りない」などと批判される。気の毒な話だ。

すでに岸田氏が自民党の新政権をリードするようになったが、菅氏の「失敗」をあげつらうより、菅氏だからできたこともあるのではなからうか。説明不足と言われるが、河野氏が自分の成果と自賛している、官僚たちに発破をかけてワクチン接種を速めたのは菅氏の功績ではないのか。第5波の流行と被る結果となったが、オリンピックの開催がその原因になったわけではない。むしろ、日本が無観客開催といえどもオリンピック、パラリンピックを開催できなかったら世界中からどのような批判を浴びることになったか。まだその実感はないが、我が国のデジタル改革を本格化させたのも菅政権だ。記者会見を遮って終わらせるといふ批判も、傍から見

ればその質問は本当に必要なのか。失言を期待しての質問など、メディアの記者たちは国民の声を背負っているのだとも言いたげな様子だが、実は、腹立たしいテレビ番組と同様に本来の政権批判というより記者たちの居場所づくりに過ぎないのではないか。

新政権が誕生すれば、「安倍・菅政権と何が違うのか？」などという立憲民主党や共産党の受け売りをメディアがしている。

「変わらない、変わらない」などという枝野氏の発言も、そもそも彼ら野党は国民の支持を受けられていないことをどう思っているのか。そのうえで、国民は変化を求めているのか。

新政権についても安倍、麻生への付度などと揶揄しているが、当選3回の若手の登用など、単に派閥ごとの人数を比較するよりも選ばれた新たな人材が何を為すかこそ注目すべきではないか。その中で僕が注目しているのは、経済再生と新型コロナウイルス対策の担当となった山際大志郎氏だ。彼は、獣医師免許を持つ科学者だ。彼ならいつまでも患者数を追いかけるようなコロナ対策に変化をもたらすのではないかと期待している。